

メルク株式会社 (Karl Roeser 氏)

メルク株式会社は、ドイツに本社を置く医薬・化学品の世界的企業 Merck KGaA の日本法人である。現在日本では、エレクトロニクス材料や顔料、化粧品向けソリューションを主力とする「パフォーマンスマテリアル(機能性材料)分野」と、バイオサイエンスの基礎研究や医薬品・バイオ医薬品の R&D、製造を支援する「ライフサイエンス分野」を両軸として事業を展開している。日本でのビジネス状況や今後の展望について、メルク株式会社代表取締役会長兼社長の Karl Roeser 氏に聞いた。

メルク株式会社は、ドイツ・ダルムシュタットに本社を置く世界的な医薬品・化学品メーカー Merck KGaA の化学品部門の日本法人である。親会社である Merck KGaA は、現在 66 カ国で、約 3.9 万人の従業員を有するグローバル企業で、世界で最も長い歴史を持つ医薬・化学品メーカーとしても知られる。同社は日本でのビジネスをどのように捉えているのか、メルク株式会社代表取締役会長兼社長の Karl Roeser 氏にインタビューを行った。



日本法人代表取締役会長兼社長の Karl Roeser 氏

日本でのビジネスの経緯について

当社は、本社製品の輸入・販売を主な目的として 1968 年に設立された。その後、より市場に根ざした事業活動を行うべく、配送センターとして建設されていた厚木事業所において製品の研究および液晶材料の一部製造を開始。1984 年には、福島県いわき市に小名浜工場を建設、パール顔料の研究開発・生産に踏み切った。日本における製造拠点設立は、製品の国内規格への適応が当初の目的だったが、時が経つにつれ、日本発のイノベーションが生まれるようになった。現在でも、厚木、小名浜、掛川(静岡県)の 3 カ所で研究開発を行っている。

メルク株式会社の強みは何か？

まず、顧客に対して高い付加価値を与える製品が挙げられる。当社が取り扱う製品は化学品の中でも、建設用のポリマーや石油製品といったバルクで取引を行う商材とは性質が異なる。例えば主力製品である液晶ディスプレイ用材料は、取引量自体は少量だが、PC、高精細 3D テレビ、スマートフォン、カーナビ、その他ディスプレイ等様々な製品に活用され、応答速度や電力消費量、画像の鮮明さ等で高いパフォーマンスを発揮する高付加価値製品である。

また、当社が取り扱うすべての製品を顧客のニーズに基づいてカスタマイズし、ソリューションとして提案できることも当社の強みだ。顧客にとって当社の製品は単なる素材にとどまらず、ソリューションとなる。顧客のニーズはそれぞれ異なるため、当社は顧客が事業展開する地域に進出し、対話を通じてニーズを把握することを重視している。アジアにおいても日本だけでなく、韓国や台湾、中国をはじめ、産業が発達している国、企業の R&D 活動が積極的な国にはすべからず進出している。

顧客とより近い関係性を構築し、ニーズに合った高付加価値製品を開発・販売するというアプローチにより、当社は医薬・化学品メーカーとして確固たる地位を築いている。液晶ディスプレイ用液晶材料では市場をリードしているほか、その他の化学品やライフサイエンス、医薬関連事業でも強い競争力を有している。

日本でビジネスを行うメリットは？

まず市場規模の大きさを挙げたい。世界第 3 位の経済規模を誇り、購買力も高い。また、高品質の製品が高く評価され、知的財産も尊重されている。日本経済全体は成熟段階にあり、今後 GDP が二桁成長することはないだろうが、高齢化社会の到来や慢性病への対策等社会ニーズの高まりにより、医薬分野やライフサイエンス分野は今後も大きな成長が見込まれる。そのため、当社は日本市場に多くの成長機会があると考えている。

さらに日本は、世界でもトップクラスの科学技術力を有し、ユニークな技術を世界に発信できる国である。当社の主力製品に使用される技術の多くは、日本の顧客企業や大学等、パートナーとともに開発したものだ。例えば液晶関連技術について、4Kといった高い解像度を持った80インチの液晶ディスプレイが実現するとは誰も想像できなかっただろうが、当社と当社の顧客である日本の大手電機メーカーとの提携により実現した。日本の電機メーカーやプリントメーカーは新しい技術の開発に意欲的であり、今後も液晶ディスプレイや有機ELディスプレイ(OLEED)等の分野におけるイノベーションは、日本から生まれると考えている。

日本で開発された製品・サービスを他国の市場に展開した事例は？

先述の通り、当社の液晶関連技術は日本で開発された製品だ。また、「Xirallic(シラリック)」や「Meoxal(メオキサール)」といったエフェクト顔料(自動車、プラスチック、化粧品などに優れた発色を実現する顔料)の主力製品は、ドイツ本社との緊密な連携の下、日本で開発・製造された。これ以外にも多くの製品が日本で開発され、世界中で販売されている。

同社沿革

- 1668年 フリードリッヒ・ヤコブ・メルクがドイツで天使薬局を取得、Merck KGaAの起源となる。
- 1968年 東京港区にイー・メルク・ヤーバン(株)(現メルク株式会社)を設立
- 1975年 神奈川県厚木市近郊に配送センターを建設(厚木事業所)
- 1981年 厚木事業所で液晶材料の一部製造を開始
- 1984年 福島県いわき市に小名浜工場を建設
- 1995年 Merck設立、フランクフルト証券取引所に上場
- 2002年 メルク株式会社に社名変更
- 2013年 小名浜で開発された新意匠性顔料「Meoxal」が世界発売開始

メルク株式会社(日本法人)

設立: 1968年
 事業概要: 化学品・ライフサイエンス関連製品の製造・販売
 親会社: Merck KGaA
 住所: (本社)東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー 5F
 URL: www.merck.co.jp

グループ内における日本拠点の役割・位置づけは？

当社は、日本を大変重視すべき市場と捉えている。アジアの中では、上海・シンガポール・東京が統括機能を有しており、東京ではパフォーマンスマテリアル(機能性材料)分野の2つのビジネスユニットを統括している。

また各国市場の重要性を考える場合は、短期的な市場の拡大予測だけでなく、安定した市場環境や知的財産制度の充実度など、長期的な視点に立つ必要がある。その点、日本市場の重要性は今後も変わらないだろう。さらに個人的には、日本で生まれたアイデアがグループのイノベーションの源泉となりうること、グローバル市場のベンチマークとなり得る高い品質を実現できること、継続的な改善への取り組み等の観点で、日本でのビジネスはグループ全体の中でも重要な位置づけとなっていると感じている。

(2014年12月)